

RI2820地区

水海道ロータリークラブ



2016-2017年度 RI会長
ジョン F. ジャーム 氏

例会予定 3月15日 米山奨学生卓話
3月22日 水海道二高 マルタ会

VOL. 54 No. 28(通算No. 2510)

2017年 3月8日(水) 例会プログラム

点 鐘
ロータリーソング・四つのテスト
ビジター紹介
出席報告
S A A 報告
諸 報 告
幹 事 報 告
会 長 挨 拶
外 部 卓 話 茨城大学 高妻孝光教授

2016-2017年度 会 長 斎 藤 広 巳 幹 事 北 村 英 明

創立 1963年9月25日

《例会場・例会日》

〒303-0023 茨城県常総市水海道宝町 2790
常陽銀行水海道支店内 3F
毎週 水曜日 12:30~13:30 ☎0297-22-1251

《事務所》

〒303-0023 茨城県常総市水海道宝町 3386
釜久ビル 3F
Tel0297-30-0875 Fax0297-30-0876

E-mail mitsu-rc@lapis.plala.or.jp
URL <http://www.mitsukaido-rc.jp/>



認証状

- (1) 創立記念日 1963年9月25日
(常陽銀行 水海道支店)
- (2) RI加盟承認 1964年1月28日
- (3) チャーターナイト 1964年5月17日
(県立水海道一高)
- (4) チャーターメンバー34名
(内現在会員数1名)
- (5) 創立当時のガバナー 小野康平氏
- (6) スポンサークラブ 土浦ロータリークラブ
- (7) 特別代表 細野勝久氏
- (8) 所在地域 常総市

3月は水と衛生月間

例会報告 VOL. 54 No. 27 (No. 2509) 3月1日(水)晴れ (司会 瀬戸隆海委員長)

本例会での主な事項

◎会長挨拶

◎外部卓話 「浜〇カフェ」世話人

いわき市 馬目一浩様

ビジター

卓話者 「浜〇カフェ」世話人 いわき市 馬目一浩様

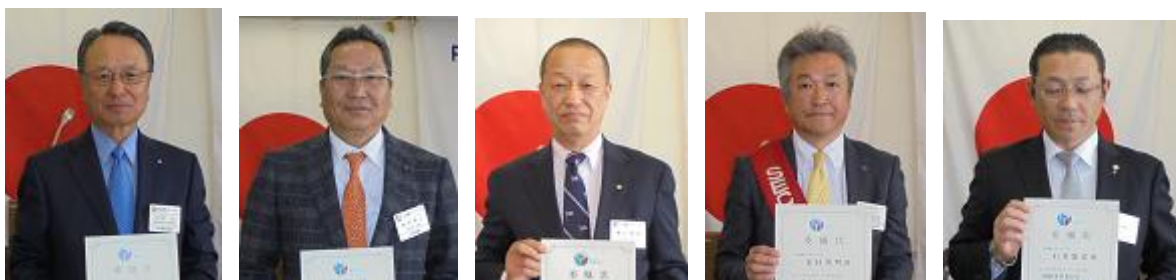
誕生祝



《会員》 亀崎徳彦会員 鈴木茂徳会員 山崎善市会員

《ご夫人》 山崎会員 島田会員 石塚(克)会員 小島会員 松崎会員

委嘱状



北村 仁会員……地区諮問委員・地区研修委員

青木清人会員……第7分区 ガバナー補佐

瀬戸隆海会員……国際奉仕委員会 総括委員長

北村英明会員……国際奉仕委員会 国際交流共同委員

石井康弘会員……国際奉仕委員会 世界社会奉仕委員

諸報告

雑誌委員会 山牟田 博委員長

ロータリーの友3月号の紹介 ご一読頂ければと思います。

《横組み》

P3 RI会長メッセージ

P6 ロータリーとは

P7～13 過去から今、そして未来へ ローターアクター

P14～17 水と衛生

P18～22 心は共に 東日本大震災

P26～27 ロータリー財団100周年を祝う

P40～41 よねやまだより

《縦組み》

P4～8 地方創生～ひと・まち・しごと

P9～12 クラブを訪ねて

3月は水と衛生月間

親睦活動委員会 石井康弘委員長

観劇会のご案内を皆様にFAX致しました。出欠表を回覧致します。ご記入頂ければと思います。

社会奉仕委員会 秋田政夫委員長

3月18日(土)第3回復興事業が開催されます。午前中は、坂野家住宅にてドローンの飛行、午後より学習センターにおいて子供たちとジオラマ作成となります。

幹事報告 北村英明幹事

週報受理クラブ 水戸RC、水戸西RC、水戸東RC

例会変更通知 なし

会長挨拶 斎藤広巳会長



LED 照明について7年前のロータリー友の中でそのメリットと将来性について長野県上田市ロータリークラブの(株)丸子信州電気 代表取締役社長 田村吉宏様の記事がありましたので紹介します。

LED(Light Emitting Diode)とは、順列方向に電圧を加えて電気を流した際に発光する、半導体素子のことです。まさに「光を発生する(Light Emitting)半導体(Diode)」であります。基本的な原理は20世紀初頭に発見されていましたが、現在のような技術が確立されるのは1960年代以降のこと。赤と緑、次に黄、

90年代に青が、1996年には白が開発され、一般照明用としてLEDが使用されることが始まりました。

このLEDを使った照明は、いま注目の省エネ機器として、将来的に照明の光源となり、白熱灯・蛍光灯に置き換わるものであろうと、期待されています。LED電球の特徴を挙げてみましょう。

① エネルギーコストの削減

LEDは電球のエネルギーを直接光に変換するので、実に省エネ。電球の寿命は白熱電球の2000時間に比べ、LED白熱ランプは四万時間を超える長寿命です。よって、電球の交換の手間を大幅に減らすことが可能となり、電気代は蛍光灯の約3分の1、白熱電球に比べて約20分の1にもなります。

② 安全素材の採用

本体はガラスではなく、高品質なアクリルを採用。よって割れにくく、衝撃にも強くなります。

③ 熱の発生が少ない

白熱電球は、消費電力のうち8割以上が熱として逃げていますが、LED白熱ランプは熱をあまり発生しません。従って、空調などの節電ができます。

④ 紫外線が少ない

放射熱や紫外線の発生も少ないので、光源によるモノの変色や劣化が、少なくなります。虫も寄り付きません。

⑤ 点灯が早い

一般の蛍光ランプよりも点灯が早いので、頻繁に点滅を繰り返す交通信号灯などに向いています。

現在では、携帯電話やデジタルビデオカメラ、電子機器のバックライト、大型ディスプレイ、道路標識などに採用されていますが、今後は自動車用ランプ、一般照明用の光源としても普及し、数年後には白熱灯や蛍光灯の代替媒体として、LEDの方が主流になるでしょうと、予測しています。

では現在とは言う、2016年の上半期の照明器具の販売動向データでLEDタイプが9割を超えて、主流というよりもそのほとんどがLEDと言っても過言ではありません。

最近では信号機までもLEDになり、より見やすくなっています。

スカイツリーの照明もLED、すべての照明がLEDになるのも間近な気がするのは私だけではないと思います。

3月は水と衛生月間

外部卓話 「浜〇カフェ」世話人 いわき市 馬目一浩様



被災地から感じる今

～ボランティアから見るいわき市の現状を踏まえて～

阿弥陀寺 副住職
浄土宗災害復興福島事務所 所員
元 浜〇カフェ代表 (3代目)
ぶくしまっ子Smileプロジェクト代表
馬目一浩 (まのめ いっこう)

福島第1原発周辺の様子

H28 夏
帰還困難区域 富岡町 夜ノ森地区



主要な道路は通行が可能だが、側道には全てバリケードが設置。

福島第1原発周辺の現在の様子

帰還困難区域 富岡町 夜ノ森地区



この場所の空間線量は、
1.96μSv/h
この場所に1年間居続けると、
約17mSv被ばくする計算になる。

福島第1原発周辺の様子

避難解除された 楡葉町



帰還に向け家を新築している方もいる。

福島県の被害状況(避難状況)

◆避難者の推移

	H24・5	H25・5	H26・5	H27・5	H28・6
避難者総数	164,865	152,113	129,154	113,983	92,154
県内避難者	102,827	97,286	83,250	67,782	50,602
県外避難者	62,038	54,827	46,854	46,170	41,532
避難先不明者	-	147	50	31	20

単位:人

◆いわき市への避難者の推移

◆双葉郡飯沼村(双葉町)・大槻町・富岡町・楡葉町・広野町・川内村・浪江町・葛尾村)
◆南相馬市・田村市・川原村・原町村

	H24・3	H25・3	H26・3	H27・1	H28・6
人数	22, 53	23, 90	22, 75	24, 13	23, 94

単位:人

避難解除にはなったけれども・・・

かふえで訪問している楡葉町の仮設住宅では・・・



大勢の方たちが来場しています。
お話を伺いますと・・・

戻らない理由

- ・インフラ(医療・介護・買物)が以前のように戻っていない。
- ・地域の水がためである木戸ダムが除染されていない。
- ・近所も戻っていないから治安が不安(夜など)
- ・いわきの方が便利だから。
- ・今の生活に慣れてしまった(学校・職場)
- ・どうして良いかわからない。

いわき市内に建設された市営災害公営住宅



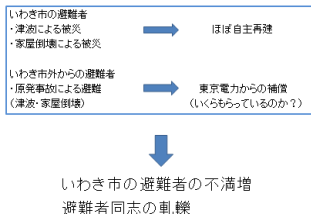
市内に16か所、全1,515戸建設予定。既に1,000戸が完成し、これにより、いわき市の仮設住宅を半年度で閉鎖される。

一般的には集合住宅だが、家庭や住民の状況によって一戸建てもあり、家族構成や家庭の状況により点検制で入居が決まる。

◆震災後いわき市が抱える問題

- ◇住民票を移動しないことで生じる諸問題
 - ・市の税収が増えない
 - ・市に納税はしていないが、行政サービスは受ける → 不公平感 (都市ガス、水道、ゴミなど)
 - ・家庭ゴミの増加 → 市のゴミ処分場のキャパオーバー
- ◇人口の急増による弊害
 - ・車の増加 → 渋滞の恒常化 → 交通事故の増加
 - ・治安の悪化 (様々な人の流入)
 - ・スーパーや量販店、飲食店などの混雑
 - ・医療、介護サービスなどが人口増に追いつかない
 - ・地価高騰 平成27(2015)年 市内の地価上昇率17%

◆被災者間の不平等



現在市内で行っているボランティア活動

浄土宗浜通り租青年会有志主催
「浜〇カフェ」

浄土宗福島教区青年会有志主催
「ぶくしまっ子Smileプロジェクト」

浜〇カフェ開設まで
平成23年3月11日 東日本大震災発生
原発事故による混乱と各寺院での震災処理
平成23年4月 浜〇の租青年会有志による浜〇カフェの開設ボランティア活動 (いわき市災害復興ボランティアセンターに登録) 市内に開設された避難所での炊き出し活動 (とまむき町 浄土宗明徳会からの協賛) 「乱舞の祭」の活動を知り、浜〇カフェの開設の機運がボランティア活動の場へと発展 (いわき市社会福祉協議会との連携とサポート)
平成25年4月24日 第1回 浜〇カフェ実施
平成27年2月10日 浜〇カフェ開設場所の拡大(いわき市・楡葉町仮設住宅) 災害復興福島事務所(浄土宗からのサポート)が始まる
平成29年 県内外からのボランティアの受け入れ(宗派・団体を問わず) 宮城県・岩手県の被災地でのふくま活動
回数 100 回を超え
回数 200 回を超え
回数 300 回を間もなく迎える(次第に規模、回数も縮小)

3月は水と衛生月間



◆浜〇かふえから見てきたこと

◇災害は現代の日本が抱える

家庭の問題が凝縮されて現れる！

- ・独居老人の問題(高齢化社会)
- ・単身世帯家族の貧困
- ・児童虐待
- ・近隣住民とのトラブル
- ・引き籠り(周囲と関わりを持たない)



災害は社会的弱者(高齢者・子供・障がい者など)に顕著に悪影響を与える！

◆浜〇かふえから見てきたこと

◇仮設から災害公営住宅へ移住したけれど・・・

- ・また新たなコミュニティを最初から形成しなければならぬ。
- ・隣近所との関係の疎遠化(建物の構造上の問題)。
- ・引き籠り(周囲と関わりを持たない、持たない)。
- ・児童虐待に気づきづらい。
- ・隣に誰がいるのか分からない。



仮設にいた時のほうが良かった。
あそこ(仮設)に戻りたい。
寂しい・・・

◆浜〇かふえの現在の役割

災害公営住宅にて

- ◆ 新たなコミュニティ形成の補助
- ◆ 災害公営住宅での引き籠りの防止
(仮設住宅から災害公営住宅へ引き籠る浜〇かふえ)

仮設住宅にて

- ◆ 悩みを打ち明ける場所、相手の必要性
- ◆ 原発事故避難者の気持ちを理解する人の必要性

活動は来年度以降縮小へ

今後は、2〜3ヶ月に1度ぐらいのペースでの見守り活動へ移行していく予定



ふくしまっ子Smileプロジェクト設立の経過

浜〇かふえの触れ合いから見た

子供たちが抱える苦悩

- ・震災によるPTSD(被災時、避難時に受けたトラウマ)
- ・原発事故により将来に影響があるかもしれない不安
- ・次の子は子供が居ない体になるかもしれない不安
- ・指差しわれない差別を受けないかもしれない不安
- ・震災の記憶が遠く → 自分達が忘れられる
- ・長く仮設住宅での不自由な暮らしの中で溜まるストレス
- ・家庭が抱える問題からくるストレス

- ◆ 子供たちの抱えるストレスの発散
- ◆ 震災を「負」の記憶だけにとめない



ふくしまっ子Smileプロジェクト設立・開催まで

平成24年3月	ふくしまっ子Smileプロジェクト企画・立案 浄土宗へ協力依頼 (浄土宗災害管理福島事務所を通じて) 浄土宗災害管理事務局との連携プロジェクト 設立
平成24年5月11日	協議会の基盤を開始 (宗徒へ協賛依頼の掲載) ホームページ開設 福島教区内への協力依頼
平成24年6月	実施場所選定、予約、現地青年会へ協力依頼 現地見学、浄土宗知恩院・現地青年会打合せ
平成24年7月	募財開始(県内在住寺院・仮設住宅・ホームページ) 参加児童・保護者オリエンテーション(県内寺院にて)



開催内容

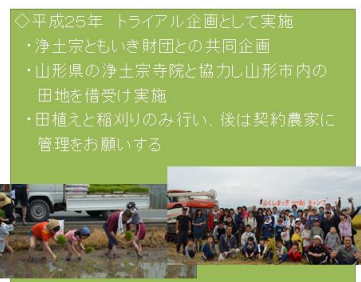
夏	ふくしまっ子Smileキャンプ 1・3・5・7・9回 ・浄土宗 総本山 知恩院での宿泊体験(おてつきごとも専任団入行) ・関西地方での様々な体験、見学活動 ・海水浴
冬	ふくしまっ子Smileキャンプ 2・4・6・8・10回 ・浄土宗 大本山 善光寺大本願参拝 ・長野県内での体験、見学活動 ・スキー教室



◆親子参加型

「親子で行こう！
田植え・稲刈りツアー」

- ◇福島県の親が抱える問題
 - ・放射線量の問題(本当に安全なの?)
 - ・親同士が本音で話し合えない
 - ・親のストレスが子供に影響
- ◇現代日本が抱える家族の問題
 - ・子供と触れ合う時間が少ない(同じ事と一緒に)
 - ・児童虐待、無関心
 - ・食に対する考え(食育)



◇平成25年 トライアル企画として実施
・浄土宗ともいき財団との共同企画
・山形県の浄土宗寺院と協力し山形市内の田を借受け実施
・田植えと稲刈りのみ行い、後は契約農家に管理をお願いする



◇平成26年より本格始動
・福島県内でも原発事故の影響の少ない西会津にて開催
・浄土宗寺院と近隣農家の協力により実施可能に
・農業体験だけではなく、家族で協力して行う活動も行う。



◇原発事故から6年・・・

- ◆ 原発の今後について真剣に向き合う
 - ・我々の考え方を直す(反省する)
 - ・福島県だけの問題ではない
 - ・子供たちの未来の為に何が出来るか

- ◆ 「頼る」から「自立」へ
 - ・県外へ定住するか、県内に戻るかを選択
 - ・対立から協調へ(互いを理解する)

◇今後の展望と抱える問題・・・

- ◆ いつまでつづければよいのか？
 - ・仮設住宅が閉じられるまで・・・？
- ◆ 活動に対する意識の共有
 - ・ボランティアに対する意識の違い。
 - ・浄土宗僧侶として
- ◆ このままで良いのか
 - ・災害公営住宅での発展形かふえの模索
- ◆ 子供の心と体のケア
- ◆ キャンプに参加した子供との対話の継続

ボランティア活動の定義はそれぞれ、しかし、私たちは僧侶として・・・

- ・ 仏教の現世観を知り、その中で生きていくこと
- ・ 諸行無常
- ・ 四苦八苦
- ・ 阿弥陀仏の摂取不捨の精神
- ・ 法然上人の念仏をお説き下された御心
- ・ 信機信法の信機(わが身のほどを信じ)
- ・ 先輩(宗祖 法然上人)の志に近づきたい。

一人も捨てず

3月は水と衛生月間

出席報告 武藤康之委員長

会員総数	出席者数	欠席者数	出席免除	メーク	出席率
52名	38名	14名	0名	20名	100.00%

ニコニコボックス 青木英男委員長 入金計 ¥72,000 累計 ¥1,411,100

誕生祝御礼《会員》亀崎・山崎(老いの坂をまた1年)・鈴木(茂) 各会員

《ご夫人》小島・島田・松崎・山崎・石塚(克) IMお疲れ様でした) 各会員

IMお疲れ様でした。参加会員の皆様大変ありがとうございました。馬目様遠方よりお越しいただきありがとうございます。卓話宜しくお願ひします。 齋藤会員

IM御苦労様でした。米・こめ・コメ 重かったです。 北村(英)会員

先日はIM大変お疲れ様でした。馬目さん、遠路当クラブへお越し下さりありがとうございます。卓話宜しくお願ひ致します。 石井会員

弥生三月、当院の早咲きの桜が早くも咲き始めました。季節の変わり目、皆様御自愛の程を。 松坂会員

先週やっと免許が戻ってきました。免許皆伝！ 鈴木(勝)会員

圏央道が開通し便利になりました。 染谷(正)会員

馬目様、卓話宜しくお願ひします。 前島会員

馬目様、卓話宜しくお願ひ致します。 青木(英)会員

3月になりました。 瀬戸会員

手術のため、1時15分に早退させて頂きます。 廣井会員

IM欠席しました。 島田会員

欠席が続きました。 五木田(裕)会員

例会欠席、申し訳ありませんでした。3月は頑張ります。 本橋会員

例会欠席しました。 二本松会員

会報委員会 亀崎徳彦委員長 福田克比古副委員長 白井 豊委員

